

鶯 溪 会

忍岡高等学校同窓会会報 2018(平成30年).4.29 No.93

忍岡高等学校同窓会

鶯 溪 会

〒103-0004

中央区東日本橋 2-16-10-504

URL: <http://www.oukeikai.com>

e-mail: oukeikai@ybb.ne.jp

電話・FAX 03-3851-9889

発行 鶯 溪 会

編集 広 報 部

= 香り高い文化の創造 =



母校の卒業証書授与式が3月10日に行われた。卒業生は平成27年に入学した217名(普通科4クラス150名、生活科学科2クラス67名)。

鶯溪会からは佐々木副会長、藤井理事、林理事の3名が来賓として参列した。

岡島まどか校長が「107年の歴史がある本校の伝統を受け継ぎ、自分にとっての自由や豊かさをおいかに手に入れるか、そのために未来の自分をきりひらいてください」と卒業生への式辞を送った。

鶯溪会からは、佐々木副会長が鈴木会長の代理として「冬季オリンピックでの日本選手の活躍は、可能性を信じて努力した結果です。みなさんも同じように可能性を追求して新しい生活へ進んでください」

そして朝日新聞3月8日付都内版に掲載された、鶯溪会の記事についても触れ、100年の歴史を持つ同窓会の正会員になったことを祝福した。

卒業生の7割が女子生徒で、会場の体育館は華やかな雰囲気

に満ちていた。90分の式典が終わり、参列した保護者の拍手を受け、クラスごとに退場する生徒それぞれが3年間の忍岡生活を十分に満喫した笑顔に満ちていた。



卒業おめでとう、 入学おめでとう



卒業式

入学式

卒業おめでとう!
62期 須賀和男

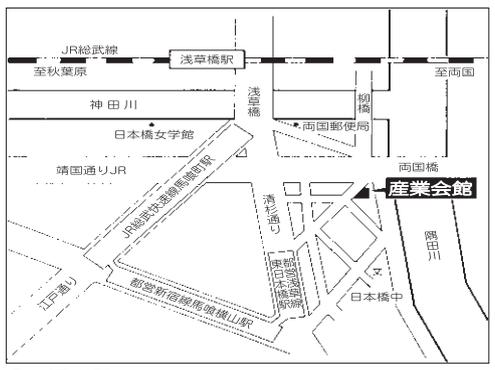
4月9日(月)、228人の新入生を迎え、入学式が行われた。普通科158名、生活科学科70名(男44名・女184名)入学おめでとう!

第100回定期総会のご案内

平成30年度「定期総会」を左記のとおり開催致します。鶯溪会発展のため会員皆様多数のご参加をお願い申し上げます。

記

- 一日時 平成30年5月27日(日) 午後1時30分
- 一 場所 中央区産業会館(地図をご参照ください)
- 一 議題
 - 一 平成29年度事業報告及び決算報告
 - 二 平成30年度事業計画及び予算案審議
 - 三 100周年記念事業報告
 - 四 その他(総会終了後、懇親会を行います)
- 以上



●交通機関
都営浅草線東日本橋駅、都営新宿線馬喰横山駅
JR総武快速線馬喰町駅、JR総武線浅草橋駅

- ### 主な記事
- ・100周年記念祝賀会…2
 - ・忍岡ナウ・部活訪問…5
 - ・同窓の人々
 - ・【98期 石村大地さん】…6
 - ・同期会報告(59・54期)…8
 - ・蓬萊園に記念植樹…9
 - ・振替用紙通信欄より…10
 - ・終身会費・協力金一覧…12

鶯溪会創立100周年 記念祝賀会開催

昨年11月18日（土）午後2時より、浅草ビューホテル飛翔の間において、鶯溪会創立100周年記念祝賀会が開催された。

鈴木賢太郎会長挨拶

本日は、服部台東区区长様、岡島校長先生、並びに日ごろ鶯溪会に対して格別のご理解ご協力をいただいております方々に来賓としてご臨席をいただきまして、誠にありがとうございます。お忙しい中ありがとうございます。

そして350名を超える旧職員を含む会員の方々にご参集いただき、本当に嬉しく存じております。会員の方々には今回の企画に対し500万円を超えるご寄付のほか物心両面でのご支援をいただきました。おかげさまでもちまして、今日この祝賀会があります。重ねてお礼を申し上げます。

まず、母校に対しささやかなご恩返しをしたいと考えました。入口にあります紅白幕の寄贈、校歌CDを千鶯会の皆様の全面的協力により作成いたしました。先ほど開場のとき流させていただきました。本日記念品としてお持ち帰りいただきたいと存じております。なお、このCDは今後新入生全員に一日も早く校歌を覚えて貰い、ひいては鶯溪会の次代の担い手になってもらいたいとの願いをこめてお配りする予定です。

2つ目が記念誌の発行です。これは今日この場の写真等を掲載して、さらに推敲を重ねますので、発行は年を越えるかもしませんが、今日ご出席いただいた皆様には後日必ず送付させていただきます。

3つ目がこの祝賀会の開催です。短い時間ですがどうぞお楽しみいただきたいと思います。ひとつ申し忘れましたが、我々卒業生にとりましても母校のシンボルであります蓬萊園の整備です。この夏、池の循環ポンプの故障もあり、近頃多少荒れております。職人の手配が遅れ今日には間に合わなかったのですが、専門家の手で少し整備させていただきます。併せて100周年の記念植樹をさせていただきます。



100年と言えば一世紀です。先般、都の教育委員会の方からこんなお言葉を頂戴しました。『公立高校の同窓会の100周年なんて、ほかにあまり聞くことがないですよ』

あの年表にもありますが、この100年、まさに激動の連続でした。その時代の荒波のなか、鶯溪会が100周年を迎えられたのはなぜだろうと考えてみました。

がここにあるのは、ひとえに、卒業生並びに教職員の皆様方の母校に対する誇りと愛情、愛校心によるものと考えております。愛の反対語は憎しみではなく無関心だそうですが、卒業生のなかには母校に対して「現在は」無関心という方もたくさんおられると思います。

かくいう私も転勤族で東京を離れている期間が長かったせいもあり、鶯溪会にかかわりを持たせていただいたのは、ほんの10年前でした。

現在まだ無関心な方の心の奥底には、母校に対する思いが「埋れ火」のようにあるのだと思います。それは10年20年後かもしれません。またいつか燃え上がるものだと信じております。

本日のこの祝賀会は、100年の重みをかみしめ、振り返り、先輩方のご努力に感謝する会であると同時に、これからの100年に向かってのスタートのお祝いでもあると思います。

150周年、200周年とたゆまず続いていくことを願っております。

皆様方には、新たな歴史の担い手として、なお一層のご支援ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

* 祝賀会を終えて *

祝賀会は、会場の「浅草ビューホテル飛翔の間」において、まず千鶯会による祝歌から始まった。

千鶯会は指揮者、ピアノ伴奏も含め、全員が忍岡の卒業生による合唱団であるが、これでも会場内の空気が一気に和らいだ。

この日の来賓は、台東区長、忍岡高校から校長をはじめ5名、保護者と教師の会小林芳巳会長の7名であった。

鈴木賢太郎会長の挨拶の後、来賓を代表して忍岡高等学校岡島まどか校長にご挨拶いただいた。

乾杯のご発声を台東区長の服部征夫氏にお願いした。服部氏は、忍岡と上野忍岡の合併に当たって、「忍岡」の名前を残すため、都議会議員時代にご尽力いただいた方である。

このあと、中華ビュッフェ形式での会食懇談となったが、足掛け2年の準備期間を振り返り、幾つかの印象深い思い出が脳裏に浮かんだ。

* * *

最初は「いっどこで開催するか」ということで会場の選択から始まったが、当時は東京オ

リンピックの開催が決まった影響で都心部の宴会施設は、様々な団体や会社などからの予約が殺到し、どこも一杯であった。

その後、卒業生の方々からいろいろなアドバイスをやご協力をいただき、1年がかりでようやく浅草ビューホテルの会場の確保ができた。



会場と併行した課題が「参加者数」である。できるだけ多くの卒業生に参加し

ていただきたいと思っていたが、参加者募集案内を開始した当初は、なんと100名ほどの申込者数にとどまっていたのだ。その後、会報やインターネットのホームページを通じて参加者を募る一方で、評議員の方々をはじめ、実行委員や理事の「口コミ」による参加者増加に向け総力を挙げた。

その甲斐あって最終的な参加申込総数は「379名」と、鶯溪会の祝賀会としては過去最高の参加者数となった。参加者に関して印象的だった

のは、最年長の30期卒業の90歳を超えた方々が元気に出席されたこと。

また、はるばる中国から参加された卒業生もいたことで、あらためて鶯溪会の層の厚さを感じたわけである。

* * *

祝賀会実行委員会としての次の課題は「どのような内容の祝賀会にするか」であった。

年齢差が最大で50歳、時代も価値観も異なる卒業生が一同に集まる会場で、どんな内容にすれば楽しんでもらえるか？ 実行委員からアイデアを出してもらい検討を重ねたがなかなか決まらない時期が続いた。



ある卒業生から「何もしなくても自然に盛り上がるのが最高の祝賀会」と言われ、迷いが吹っ切れたこともあった。最終的には「千鶯会による

〔花〕などの合唱」をかわきりに「鶯溪会100年の記憶」というタイトルで、思い出の写真会場内のスクリーンに映し出し楽しんでもらった。

思い出話に弾んだ最後は、佐々木弘副会長の「三本締め」の後、散会となった。

参加者の方々の多くは「西市」で賑わう浅草の街に、また、それぞれの期の二次会会場に向かって、会場を後にして行った。

さて、今回の（祝賀会）当日は、彼の千鶯会の歌声が、健在の佐藤光政先生の指揮の下、今も衰えない美声で幕が明け盛り上がった。場の雰囲気は馴染み、集うた一同が自然と打ち解け学年を超えて交わす会話の場面があらこちらで見られた。

全ての後片付けを終え帰ろうとしたとき、実行委員の一人から「もう来月からは祝賀会の打合せは必要ないですね」と言われ、安堵と共に若干の寂しさを感じていた。

44期生の私達は、なんと4名のごじんまりとした出席者であったが、今日の出席者の同窓の仲間は、共通の思い出の先生方、当時の通学路浅草橋周辺などなど会話が弾んだ。44期生の私達のクラスは、今も隔年にクラス会を開いており、今日記念に頂いた校歌のCDも、歌詞を味わうのを楽しみに帰路についた。

実行委員長

57期 田中 修

寄稿

鶯溪会100周年に想う

44期 河野美和子

母校創立何周年はよく聞くが、同窓会創立何周年、特に100周年はあまり耳にすることは少ない。そう、2017年11月18日は、まさに忍岡同窓会の活動が100周年経たことなのだ。

鶯溪会のますますの発展を祈っている。

44期生出席者

- 柏木 勝子 片桐 久子
河野 美和子 森田 昌代

記念誌

「鶯溪会の百年」刊行

鶯溪会の百年 目次

発行にあたり	30
鶯溪会100周年によせて	31
歴代編集委員会長	32
歴代学長	33
東京都立国際高等学校の100年	34
1期 昔をしのぶ	35
2期 心ふるさと	36
3期 第一志の頃	37
4期 同窓会(鶯溪会)設立の年	38
5期 梅根様の工芸茶坊の校風に	39
6期 校風に厳格な貞妻賢母教育	40
7期 入学の年に関東大震災に遭遇	41
8期 質素旨とする校風がありがたく	42
9期 初め洋風の制服に	43
10期 昭和天皇の御典で奉祝の和歌	44
11期 入学年に国際高等学校に改名	45
12期 入試は口頭試問と内申書審査	46
13期 悔いなき青春	47
14期 30台のタクシーで修学旅行	48
15期 楽しかった留学の卒業生	49
16期 4年制最後の卒業生	50
17期 恩顧の思い出	51
18期 卒業を送る会で、阪神寺田	52
19期 戦争へ向かう中、新校舎に移転	53
20期	54
21期	55
22期	56
23期	57
24期	58
25期	59
26期	60
27期	61
28期	62
29期	63
30期	64
31期	65
32期	66
33期	67
34期	68
35期	69
36期	70
37期	71
38期	72
39期	73
40期	74
41期	75
42期	76
43期	77
44期	78
45期	79
46期	80
47期	81
48期	82
49期	83
50期	84
51期	85
52期	86
53期	87
54期	88
55期	89
56期	90
57期	91
58期	92
59期	93
60期	94
61期	95
62期	96
63期	97
64期	98
65期	99
66期	100
67期	101
68期	102
69期	103
70期	104
71期	105
72期	106
73期	107
74期	108
75期	109
76期	110
77期	111
78期	112
79期	113
80期	114
81期	115
82期	116
83期	117
84期	118
85期	119
86期	120
87期	121
88期	122
89期	123
90期	124
91期	125
92期	126
93期	127
94期	128
95期	129
96期	130
97期	131
98期	132
99期	133
100期	134

穏やかに過ごした高校生活	1
かなわなかった東大会験	2
初めての学費で驚いた私たち	3
全校集会と制服自由化	4
激闘の5日間	5
なんか熱い時代だったんだな	6
時代の過渡期に学んだ日々	7
自由闊達に過ごした貴重な3年間	8
平和だった3年間	9
蓬莱園のアール	10
64期の団結	11
思い出多き園	12
高校生活のさやかなスリル	13
心をひとつにした後祭	14
東京オリンピック生まれ	15
生意気盛りの高校生生活	16
自由な校風と伝統に育まれて	17
下町の忍岡校	18
待ちに待った格技祭の完成	19
心に刻む大切な思い出	20
名物教師	21
行事がいっぱい	22
241通りの思い出	23
ルーズワックで過ごした3年間	24
単位制高校初めての入学	25
手作りのパレンタンチョコ	26
99期 東日本大震災で卒業式が延期に	99
100期 ケリエターミ集まれ!!	100
101期 けいおん!イェー!	101
102期 創立100年の入学	102
103期 技術検定・冠王	103
104期 変わったデザインへの制服	104
105期 忙しい3年間でした	105
コラム 教習を夢中に開弄された妹、上野忍	106
記録・資料	107
制服の変遷	108
学校制度の変遷	109
合格通知・身分証明書など	110
校歌について	111
音楽部(合唱)	112
弓道部	113
演劇部	114
茶華道部	115
千鶴会	116
鶯溪会小史	117
卒業人数の推移	118
卒業生数の推移	119
編集後記	120
編集に協力いただいた方々	121
編集後記	122
編集に協力いただいた方々	123
編集後記	124
編集に協力いただいた方々	125
編集後記	126
編集に協力いただいた方々	127
編集後記	128
編集に協力いただいた方々	129
編集後記	130
編集に協力いただいた方々	131
編集後記	132
編集に協力いただいた方々	133
編集後記	134
編集に協力いただいた方々	135
編集後記	136
編集に協力いただいた方々	137
編集後記	138
編集に協力いただいた方々	139
編集後記	140
編集に協力いただいた方々	141
編集後記	142
編集に協力いただいた方々	143
編集後記	144
編集に協力いただいた方々	145
編集後記	146
編集に協力いただいた方々	147
編集後記	148
編集に協力いただいた方々	149
編集後記	150
編集に協力いただいた方々	151
編集後記	152
編集に協力いただいた方々	153
編集後記	154
編集に協力いただいた方々	155
編集後記	156
編集に協力いただいた方々	157
編集後記	158
編集に協力いただいた方々	159
編集後記	160
編集に協力いただいた方々	161
編集後記	162
編集に協力いただいた方々	163
編集後記	164
編集に協力いただいた方々	165
編集後記	166
編集に協力いただいた方々	167
編集後記	168
編集に協力いただいた方々	169
編集後記	170
編集に協力いただいた方々	171
編集後記	172
編集に協力いただいた方々	173
編集後記	174
編集に協力いただいた方々	175
編集後記	176
編集に協力いただいた方々	177
編集後記	178
編集に協力いただいた方々	179
編集後記	180
編集に協力いただいた方々	181
編集後記	182
編集に協力いただいた方々	183
編集後記	184
編集に協力いただいた方々	185
編集後記	186
編集に協力いただいた方々	187
編集後記	188
編集に協力いただいた方々	189
編集後記	190
編集に協力いただいた方々	191
編集後記	192
編集に協力いただいた方々	193
編集後記	194
編集に協力いただいた方々	195
編集後記	196
編集に協力いただいた方々	197
編集後記	198
編集に協力いただいた方々	199
編集後記	200

記念誌が刊行され、祝賀会へ参加を申し込まれた方々に2月末に送付した。136ページに及ぶ形になったが、受け取られた会員の方は、どのような感想を持たれただろうか。100年の歴史を感じられる記念誌をと、編集委員それぞれが、取材をし、資料を探して作り上げたものだ。

過去の記念誌や「梅の香り」などから、遠い過去の方々の思いを見つけて載せさせていただいた。100年の歴史は学校と共にあり、その重みはとてつもないものと感じている。最後の数ページは、祝賀会の様子をドキュメント風にまとめた。参加されていない方にも、その雰囲気が感じられる内容としている。

また、編集後記にも書いていますが、取材に協力された同窓生、先生、たくさんの思いが載せられている記念誌とされている。その思いが、これからの忍岡高校の未来に繋がっていくことを願っている。

実は私事で恐縮だが、編集途中で交通事故に遭い、入院する羽目となり、ベッド上で作業したこともある。そのため、刊行予定から大幅に遅れることとなったことを申し訳なく思っている。その中であっても、編集委員の努力で何とか出来上がったことを報告させていただく。

編集作業は、苦労がなかったと言える、嘘になるが、学生時代に戻ったような楽しい作業であったと振り返っている。

3月8日(木)の朝日新聞都内版に、「忍岡校同窓会 100周年」と題する記事が掲載された。その中で記念誌も紹介されている。

そのため、記念誌の購入希望のメール、FAXが会室に届いていて、その対応に追われている現状だ。

全国紙の新聞への掲載で、忍岡の卒業生でない方からの購入希望もある。戦前戦後の学校の歴史に興味のあるという方だ。亡くなられたお母上に忍の話をお聞きし、是非読んでみたいと思われた方もいる。また、お母上にプレゼントされたという方もいる。我々が作り上げた記念誌が、いろいろな方に、思いが伝えられていると思うと感慨深い。

最後に、記念誌に關わられた編集委員の方々、取材をさせて戴いた方々、アルバムや資料をお借りした方々、そのすべての方々に「ありがとうございます」と感謝を申し上げます。

会員の方で、記念誌の購入を希望される方は、会報に同封される振込用紙にて振り込みをお願いしたい。頒布価格は2000円(送料込) 振込を確認後、送付する予定。

編集長 53期 中西 弓子

記念誌訂正
69ページ 山崎先生→山脇先生
126ページ 櫻田未央→櫻田奈央



◎平成29年8月9日

アジア地区家政学会スクール ビジット

アジア地区家政学会におけるプログラムのひとつであるスクールビジットが忍岡高校で実施されました。学会参加者(海外・日本の研究者、大学生など)が来校し日本の家庭科教育の現状を視察されたわけです。大会テーマの「伝統と革新―持続可能な社会への家政学の挑戦―」にちなみ、「浴衣着付け」と「どら焼き作り」の授業体験及び施設見学などしてもらいました。実際には生活科学科3年生が浴衣の着方・どら焼きの作り方を説明したのですが、生徒にとっては日頃の学習成果を踏まえながらの国際交流のよい経験となりました。英語で伝えることの難しさを実感しながらも、参加者の方々が楽しく体験してくださる様子に優しさを感じていたよかったです。



◎平成29年9月5日

2年次生のクラス代表によるビブリオバトル(書評)の校内予選が行われ、図書委員による投票の結果、本校の代表に2Eの生徒が選ばれました。その後9月24日に練馬工業高校で行われた東京都大会に出場し、1回戦を突破して2回戦に進み善戦しました。



《発表者》 《書名》 《著者》

2A 生徒	ツナグ	辻村 深月
2A 生徒	小説の神様	相沢 沙呼
2B 生徒	闇の守り人	上村 菜穂子
2D 生徒	キケン	有川 浩
2E 生徒	星の王子さま	サン=テグジュペリ
2F 生徒	終焉ノ栞	スズム

主な学校年間行事

- 4月6日 前期始業式
- 4月9日 入学式
- 6月1日 体育祭
- 6月8日 宿泊防災訓練
- 6月9日 宿泊防災訓練
- (7月26・27日 全国家庭クラブ研究発表会)
- 7月21日 夏休み
- 8月31日 文化祭
- 9月8日 前期終業式
- 9月28日 後期始業式
- 10月2日 後期始業式
- 10月18日 後期始業式
- 10月21日 修学旅行
- 12月26日 冬休み
- 1月7日 冬休み
- 3月9日 卒業式
- 3月25日 修了式
- 3月26日 春休み

部活訪問

《バスケット部》

部員 募集中!

3月半ばの蓬萊園、一本の杏の若木が可愛い桃色の花を咲かせて訪れる者を迎えてくれた。この木は、3月5日に鶯溪会創立100周年を記念して植えられたものである。

日曜日の午前、体育館では、男子バスケットボール部の練習試合が行われていた。

体育館の床を駆けるシューズの音が響き、ドリブル、パス、シュート、審判の吹くホイッスル、選手とボールの動きに見入る。



丸川先生(左)とこの日の部員4名

男子バスケットボール部の部員は、二年生3名、三年生2名マナージャー3名。チームを作るのにぎりぎりの人数である。この日も、欠員が出たためOBの応援を頼んでいた。OBも快く協力してくれる。この仲の良さは部の特徴とも言えるようである。練習には顧問の丸川先生も加わる。練習は、週に3日は体育館で、1日は外でランニング等のトレーニングをし、ニングをしていることである。



丸川先生

は顧問になって3年であるが、部を運営指導するにあたり、基本的なコミュニケーションや人間関係の始点である「挨拶と礼をしっかりと守ること」を基本として挙げられた。

学校の部活としてやっている意味も、そこで人間性を鍛えて行くところであり「三年間で自分を鍛えて身につけていってほしい」と。

部員同士仲が良いということ、上下の隔てなくお互いを認め合い尊重し合う気持ちがあるからではないだろうか。

この部では、今一番の望みは、部員が増えてほしい!ということである。また、公式試合等では観客席が設けられているが、忍岡高校からの応援は少なく、是非頑張っている後輩の応援をお願いしたい、とのことである。東京都高体連のHPに、4月15日から始まった春季関東大会のことが載っている。忍岡はAブロックだ。励ましの声援に部員が元気づけられるとよいのだが。

日曜日だったせいか、吹奏楽部の練習音楽のみが遠くに聞こえる静かな校舎を後にした。

55期 藤井 悦子
64期 林 由紀子

同窓の人々

東京藝術大学大学院美術研究科

石村 大地さん (98期)

石村さんは1991年生まれの26歳。2010 (平成22)年卒業の98期。

4浪して東京芸大の美術学部工芸科に入学した。専攻は鍛金。卒業制作で三菱地所賞を受賞。4月から大学院に進んでいる。

現在の忍岡高校は2006年から上野忍岡高校の生活文化科と合併して、全日制の単位制高校となった。石村さんはその2回目の卒業生。この「同窓の人々」に単位制となつてからの卒業生が登場するのは初めてのことである。

3月中旬、上野公園にある東京芸大に石村さんを訪ねた。

美術学部の正門近くに、台車に乗せられた作品が運ばれてきた。赤く彩色された巨大なウサギの頭である。高さ2m50cm。アルミニウム製で中は空洞だが、重さは150kgあり台車に乗せても一人では動かせない。男子学生3人がかりである。制作には1年かかったという。鍛金とは、簡単に言えば金属の板を金づちで叩いて形をつくっていく技法と辞書にはある。小さな器や装飾品だけではなく、こんな大きなオブジェもつくることが初めて知った。

石村さんの第1志望は上野高

98期「手づくりのバレンタインチョコ」に書いたのここでは省略する。

石村さんは国立大学を受験した。生活科学科だったのでセンター試験5教科7科目のうち国語と英語以外は履修しておらず、当然のように不合格だった。予備校に通い受験を続ける。しかし翌年も翌々年もサクラは咲かなかった。これ以上親に迷惑をかけたくないと思い、いったんは就職を決意したが、母親に美大受験を薦められる。石村さんの父親は中学の美術教師、忍の卒業生である母親も美術教師の資格を持っていた。同じ予備校の美大受験コースに2年通った。美大の予備校のレベルの高さは定評がある。美術の基礎を徹底して叩き込まれた。2年目で東京藝術大学美術学部工芸科に合格した。工芸科を志望したのは漆芸に魅力を感じていたからだという。

工芸科には彫金、鍛金、鍍金、漆芸、陶芸、染織の6つの専攻課程がある。1年生は工芸基礎研究室に所属し取手校での授業。工芸科教員による造形実習の他、油画・日本画の絵画実習、木工芸実習、彫刻科の塑像実習、ガラス造形実習を行う。1年間で基礎的な造形力を学びつつ、他

分野の表現技法や価値観を体験する幅広い内容となっている。

2年生から上野での授業となる。前期は6つの専攻から3種類を選択し、実際の素材を使った実習を行い自分の専門分野を決める。後期からが専門課程である。

石村さんが入学前の希望だった漆芸ではなく鍛金に進んだのは、この前期での鍛金の実習が面白かったからだ。金属は素材ごとに性質が違うという。「鉄は熱いうちに打て」の格言どおり鉄は熱いうちにしか形をつけない。スピードが要求される。一方、銅は熱を加えて柔らかくなったものを時間をかけ少しずつ叩いて硬くする。鍛金実習で

は旋盤やフライス盤の操作、溶接技術も学ぶ。工房を見せてもらったが、さながら町工場のようだった。

バイトで長く続けたものは工芸科らしくフィギュア(人・動物・キャラクター)の形をうつした人形)の原型づくり。手で粘土をこねたり、3Dプリンターを使ったりする。一方、ガテン系(肉体労働者を指す通称)やバーテンも経験した。



石村さんと作品「好きを集める」



製作中の石村さん

卒業制作の作品名は「好きを集める」。自分が思う「好きなもの」のみで構成したので作品名もそのまま「好きを集める」にしたとのことだ。「ウサギ」「大きい」「赤い」「迷彩」をテーマにつくった。確かに巨大な赤く塗られたウサギの顔に稲妻のような白い迷彩が施されている。構想が浮かんだのは去年の4月6月から制作にとりかかった。素材のアルミは柔らかく、通常使う1mmから2mmの板では形の保持が難しい。そのため4mmの板を使った。その分、加工はしづらい。使ったアルミ板は70枚。当金と金づちで叩いて曲げた大きなアルミ板を組み合わせ溶接して形を作っていく。大変な力技だ。アルミには溶接が難しいという特徴もある。苦労したが、その成果は賞として結実した。

石村さんの作品「好きを集める」は、新潟県の十日町市と津南町で7月29日から9月17日まで開かれる「越後妻有アートトリエンナーレ2018」に出展を要請されている。また10月から11月には東京駅の丸ビルで展示予定だという。

石村さんの今後の活躍を願ってやまない。

55期 要 幸男



左から岡島校長、鈴木咲菜さん、鈴木会長

右から岡島校長、比嘉爽乃さん、佐々木理事・藤井理事

薬学部入学おめでとう

鶯溪会奨学金を2名の入学者に贈呈

比嘉爽乃さんが、今年の4月から城西大学薬学部医療栄養学科に入学、鈴木咲菜さんが、同じく城西大学薬学部医療栄養学科に入学が決定し、鶯溪会から奨学金を贈呈した。

平成30年3月10日(土)、卒業式を終えた比嘉爽乃さんに、また、鈴木咲菜さんには、3月15日(木)に校長室にきていただき、鶯溪会から奨学金を贈呈した。将来は、比嘉さんは管理

薬学部奨学金は、4期生である笠倉志げさんの遺言により、当時の社会情勢からご本人が薬学部進学がかなわず、後輩に自身の夢をかなえてもらおうと、同窓会である鶯溪会に昭和63年に200万円を寄託したものの。その後、昨年平成29年6月、埼玉県薬剤師会会長を長年にわたって務められた48期白石(桃木)美智子さんからも100万円のご寄付をいただいている。

薬学部入学者 奨学金

このお二人のご寄付もとに今まで薬学部に入学者した10数名の卒業生に対して贈呈している。

忍岡高校が 全国家庭クラブの 大会事務局に

平成30年7月26日(木)から7月27日(金)の2日間、文京区シビックホールにおいて「第66回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」が開催される。全国の家庭科を学ぶ高校生が加盟しており、日頃の研究や実践活動の成果を発表するとともに、情報交換などを通してクラブ員相互の交流を深めることにより家庭科教育を一層推進することを目的としている。今年の大会は忍岡高校が東京での大会の運営を実行する。

鶯溪会は、当大会のスローガン「東京発 希望の切符を携えて 夢に向かって走り出せ」に協賛し大会広告誌に左記の広告を掲載した。



千鶯会だより

32期 吉岡真玉

昨年の台東区合唱祭は、東京芸大内奏樂堂で、10月15日に行われました。千鶯会は、鶯溪会が100周年を迎える記念の年にちなみ、旧校歌、新校歌、そして滝蓮太郎作曲の「花」の三曲を演奏しました。アンケートによりますと「旧新校歌の対比が面白かった。卒業生だけという団結力が素晴らしい。衣装とコーラスがよく合っています」等々大好評でした。卒業生の方も、例年より多くいらしたようで、「久しぶりに聞く校歌でなつかしく歌ってしまいました」などの声もありました。又、講師の鹿内先生からも「本当に素晴らしい演奏で感動しました」と、いただきました。

今年の台東区合唱祭は、種々の事情で例年と異なり、浅草公会堂で8月12日(日)と決まりました。千鶯会はタンゴで「小雨降る道」「碧空」を再び歌います。タンゴの女王「藤沢嵐子さん」は30期生私達の先輩です。当日の詳しいことは、6月以降左記までお問い合わせ下さい。

○四七―三三九―一五三四 米内まで

同期会報告

第59期同期会

59期 中西美子（青木）

前回の還暦の同期会から5年経過したこともあり、2月18日（日）、上野オーラムにて同期会を開催しました。

今回は同期の仲間のみを集まりとなりましたが、当日出席予定者57人に欠席者は無く、開会時間のかかり前に大半の方にお集まり戴くことができました。

受付での歓声の後、旧クラス毎での飲食、5年間の恩師や仲間への動向につきまして、代表幹事からの報告を受けました。



前回現役でお仕事をされてい
て都合が付かなく欠席、今回初
めて出席された方もいらっしゃ
いました。その後は昔に戻りワ
イワイと懐かしく思い出を語る
ひと時を過ごす時間になりました。

最後に鶯溪会100周年の校
歌のCDを使わせて戴き全員で合
唱、そしてロビーでの記念撮影。
アツという間の2時間半を過ご
し、次回の同期会は5年後？と
名残惜しく散会しました。

ご参加戴きました皆様、どう
もありがとうございました。ま
たお会いできるのを楽しみにし
ております。

54期同期会報告

54期 上原 稲子

舞い散る桜の中での同期会
昨年9月から同期会開催話が
出、同窓会百周年の後に本格的
に検討がされました。会場候補
の中から、一部の幹事が下見に
行き、桜満開を大いに期待し、
4月1日アルカディア市ヶ谷
（私学会館）に決まりました。
当日は満開の桜とは少し違っ
てはいたものの、まだ枝に7割
くらい残り、外堀には桜の花び
らが散り大変美しい景色となっ
ていました。

伊藤駿二郎（87歳）、堀井登
志喜（81歳）、北島裕子（81歳）



各先生を迎え、近況などお話し
いただき、内海琢己（92歳）先
生からは、これから続く人生へ
応援の言葉をいただき、代表幹
事の井上栄一郎さんが代読。内
海先生のお人柄・生き方・愛情
あふれるものでした。恩師3名、
生徒44名の会はクラス別による
自己アピール、仕事や、趣味な
どの話題に花が咲き、幹事の希
望で校歌の他に、「明日がある
さ」を熱唱しました。
54期生も70歳になりましたが、
先生方からの人生訓に励まされ、
各自の道を健康で前向きに、明
るく生きていこうと心を感じま
した。

会報の歴史

記念誌の編集作業を実行して
いる中、「会報」っていつ頃か
ら発行したのかしら、という声
が上がり、その歴史についてひ
も解いてみた。

会報第1号は、1971（昭
46）年、母校創立60周年に当た
り、いくつかの行事の一つとし
て創刊された（写真 左下）。「軽
井沢山荘の改装」「在校生の校
服の自由化」などの記事が見ら
れる。その1年後には第2号が
発行され、卒業生10名から投稿
が寄せられている。

以後定期的に年2回のペース
で現在の93号まで絶えることな
く発行している。
会報のタイトルは、当初「鶯
溪会だより」、サイズはB5版
仕上がりだったが、第31号から
は「鶯溪」に改めている。

この題字は、会員
の方々に揮毫いただい
き第1面を飾っている。
現在のA4版仕上が
りは第80号からだ。

最終ページの「理事
会活動報告」にあると
おり、理事活動は主に

会報の制作・発行にあると言え
る。

発行の約3カ月前に編集会議
を開催、各記事の取材・起稿の
担当者割り振りするところか
らスタートする。

「恩師訪問」「同窓の人々」「千
鶯会だより」「同期会報告」等
に加え、在校生の今を伝える「忍
岡ナウ」「部活訪問」も定番記
事となっている。

読者の声」が聞こえてくる
のは「振替用紙通信欄より」だ。
小さな自由筆記欄に書き込まれ
ており、想いが伝わってくるこ
ろだ。

現在、会報は、在校生を含め、
約12000名の同窓生に対し、
評議員の方々と発送作業を実施
しているが、名簿のデータベ
ス化ができ次第、発送作業を外
部委託する予定である。

会報はこれからも、卒業生、
在校生の心を繋ぐ大切なツール
となっていくに違いない。



蓬萊園に記念植樹

鶯溪会創立100周年記念事業の一つとして、

蓬萊園に杏(あんず)の樹を植えた

『蓬萊園』の由来

《記念誌「鶯溪会の百年」より再録》

現在、都立忍岡高校・柳北公園・柳北小学校のある一帯に、江戸時代、肥前国(現佐賀県、長崎県の一部)平戸藩主松浦氏の屋敷があった。寛永九年(1632)、松浦氏は、幕府から

この地を与えられ、別邸を造営し、庭園を築造した。庭園は後に蓬萊園と命名された。明治40年(1907)刊行の「東京案内」には、「文化文政の頃の築造に係り、東京名園中現存するものの一也」と記されている。園内の模様は大正3年(1914)刊行の「浅草区誌」に詳

しい。同書によると、大池を中心に岡を築き、樹木を植え、東屋を建て、十三基余の燈籠を配し、園内各所に雅趣ある名称を付した。面積は約二千六百坪に及び、池水は鳥越川から取り入れていた。この名園も関東大震災のために荒廃し、消滅した。現在は忍岡高校グラウンド東北隅に池の一部と都天然記念物指定の大公孫樹を残すだけである。

(台東区案内板より)

母校の正門を入るとまず目にするのは、大公孫樹だ。東京都の天然記念物として圧倒的な存在感があり、小さな蓬萊池はわずかではあるが水を湛えている。しかし、昨年の夏には蓬萊池のポンプが故障し、蚊が大発生し、近所から苦情が寄せられた。学校の尽力でポンプは修理できたが、蓬萊園全体が荒廃してきており、その整備が課題となってきた。

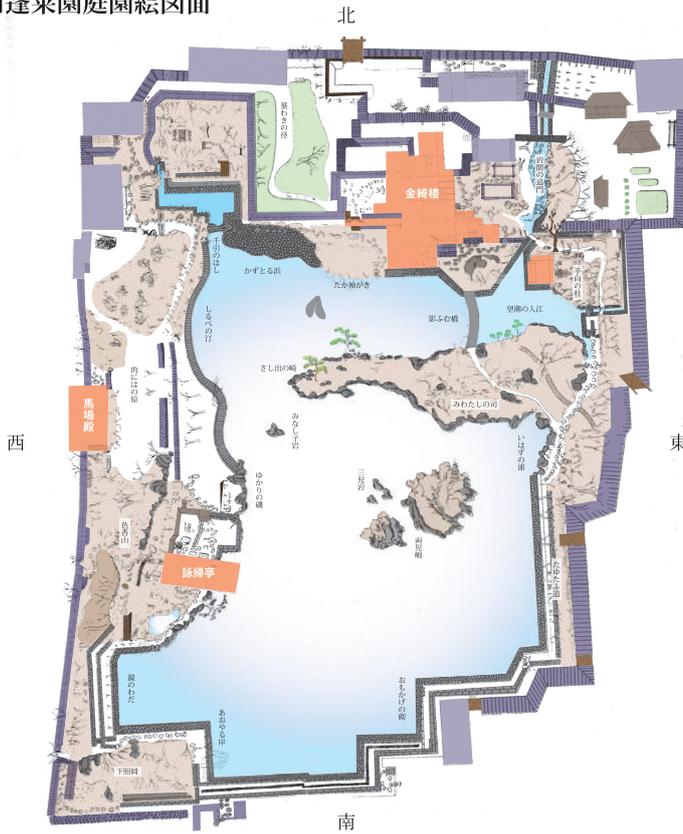
た。大公孫樹以外に種々の植生があるが、特に手入れをしていないため、まとまりのない庭園になっている。鶯溪会としては、同窓生にとっては思い出の、そして在校生にとっては憩いの場所である蓬萊園の整備に取り組んで行こうと、検討を始めたところだ。

* * *

鶯溪会は、これまで創立100周年記念事業として、「祝賀会開催」「記念誌の刊行」「紅白幕贈呈」「校歌CD制作」を実施・実行してきたが、加えて蓬萊園内に記念となる木を植えることを企画した。当初、旧校章ゆかりの梅の木を候補に上げたが既に何本か植えてあることから、春に花をつける「杏(あんず)」の木を3月5日に植樹した。既に3月下旬には可憐な花を咲かせている。

今後は毎年新入生を迎えるころ、満開の花を咲かせてくれることだろう。

旧蓬萊園庭園絵図面



その整備が課題となってきた。



杏の木 3/23 撮影



左から加藤副校長・岡島校長
鈴木会長・佐々木副会長



振替用紙通信欄より

第32期 加藤 好子

100周年おめでとうござい
ます。来年90歳になりますが、
忍岡で学んだことは私のバック
ボーンになっております。戦争
のない日が続きますように。

第45期 中道 靖子(塚越)

鶯溪会役員の皆様の御尽力に
より会がなりたっていることに、
心より御礼申し上げます。本当
にありがとうございます。

第46期 梶 義子(平岡)

浅草鳥越から木更津へ嫁いで
52年。今はすっかり地域に馴染
み日赤の活動や間税会の役員とし
て日々働いています。勿論家業
の呉服屋もです。

第47期 早川 和子

中野香代子先生が昨年10月27
日に百歳にてお亡くなりになり
ました。

晩年を千葉の「あんしん館」
で穏やかな余生を送られ当地で
のクラス会にはお元気にご出席
下さいました。

ご冥福をお祈り致します。

第48期 大久保 信隆

小生も5月11日に経済産業大
臣より旭日雙光章を受章しまし
た。53年の仕事に感謝。

第50期 稲垣 雅章

ハワイアン親父バンドで楽し
んでます。

第55期 山縣 正

老後は楽しそうと思ってい
たら、町会長になってしまいました
。台東区に引越そうかな!?
(笑い)

第59期 内海 順夫

幹事の皆様、大変お世話にな
ります。現在、日本とシンガポ
ールでライフサイエンスに関わ
る仕事をしています。

第67期 柴田 哲也

67期は、少人数のライングル
ープで小同窓会を行っています。
今年は2回、行いました。

第69期 小坂 寿子(小島)

盛大な祝賀会に参加すること
ができ、楽しく、懐しい時間を
過ごさせて頂きました。

旧職員 小林 敬子(小島)

鶯溪ありがとうございます。
まず、訃報を見て月日の早さに

驚き、寂寥を感じます。100
年間の多くの出会いが心暖まる
からこそ「悲しみも、喜びも」
なのですね。記念誌下さいませ。

旧職員 内海 琢己

鶯溪会100周年おめでとう
ございます。私も昭和29年から
42年まで「忍」で育てていただ
き、ありがとうございます。
ますますのご発展を祈念します。

寄稿

第42期 加藤 威郎

母校の記事、なつかしく拝読
致しました。昭和26年に入学し
ましたが、募集が女子200名、
男子100名でした。入学早々、
男子バスケット部にさせわれ入部
(男子5名)し、上級生の3名
の男子を加え、男子バスケットが
スタートしました。女子チーム
の附属のような感がありました。
校庭にあったプールに、ボール
を追いかけて、飛びこんでしまっ
た事、そのプールでの水泳大会、
夏休みでの校庭での強化練習
(体育館は女子バレー部)で、
防衛大の岡田コーチの指導は、
それはきびしいものでしたが、
今でも仲間と会うと、話題にな
ります。

会費納入のお願い

年会費は会の活動を支え
る大切なものです。2千円
の年会費の納入にご協力を
お願いいたします。終身会
費は3万円です。

同封の郵便振替用紙について

年会費、終身会費を納め
ているのに会費納入用の郵
便振替用紙がいつも同封さ
れてくる、会費納入済みな
のになぜ？

この郵便振替用紙につい
ては、毎号ご説明を掲載し
ております。振替用紙は年
会費納入のみでなく、会へ
の協力金や企画の事業へ
のご協力など、その時々
に応じて会員の皆様に入金
いただく際にご利用いただ
いております。

現段階では、会報送付時
に、既に終身会費、年会費
を納入済みの会員の方々を
区分できず、ご不満を承知
のうえで同封しております。
ご理解いただきますようお願い
いたします。

広告募集

会報掲載の名刺広告を募
集しております。

会報の1段の六分の一サ
イズで3千円が基本です。
発行部数は1万2千部です。
ご希望の方は、事務局ま
でお申し込みください。



第67回 江戸趣味納涼大会 うえの夏まつり

Back To The Country Music!!

第6回 ビッグウエスタン 2018 Summer

日時/8月12日(日) 開場 15:30/開演 16:00/終 19:30

チケット料金 一般前売り/1,200円 一般当日/1,500円
高校生以下・外国人割引/500円(当日のみ)

会場/東京都立上野不忍池 水上音楽堂

お問い合わせは 47期 加藤 肇 まで

tel:03-3998-6631/090-3132-5577

100周年記念事業寄付金一覧

単位：1口3千円（敬称略）

旧職員 須藤 健児 1
 〃 菊地 まり 1
 〃 浦部 万里子 4
 〃 中園 靖雄 1
 〃 木村(清水)ゆかり 10
 〃 大口 和枝 3
 〃 内海 琢己 2
 23期 故 宗 朋子 1
 25期 糸原 登喜子 10
 〃 春田 政江 2
 30期 鈴木 志賀子 1
 31期 岡安 茂子 2
 〃 万木 幸子 2
 32期 加藤 好子 10
 〃 林 秀子 1
 〃 松島 和恵 1
 35期 河野 百合子 2
 36期 辰己 玲子 1
 37期 梅田 澄子 3
 38期 小形 ケイ 1
 39期 高垣 周子 5
 〃 唐澤 志津子 3
 40期 河村 郁子 1
 〃 日向 央江 3
 〃 高橋 久美子 2
 41期 齊藤 洋子 5
 〃 寺田 芳生 20
 42期 日下部 京子 1

42期 谷貝 篤子 1
 〃 小川 直子 1
 43期 山口 篤子 2
 44期 崎山 富美子 2
 45期 清水 瑛子 1
 〃 松浦 文江 1
 〃 亀岡 紀代子 2
 〃 中道 靖子 1
 46期 南 畝 清志 2
 〃 加藤木とみ枝 1
 〃 山口 健哉 1
 〃 河村 洋子 1
 47期 高田 省一郎 1
 〃 生沼 泰子 1
 〃 府川 恭子 1
 〃 齋藤 寛子 1
 〃 中村 ハル 1
 〃 屋間 敏子 1
 48期 東方 幸子 5
 50期 松岡 朴枝 1
 〃 佐藤 鉄男 3
 〃 多田 洋子 5
 〃 稲垣 雅章 1
 51期 青山 絢子 1
 52期 佐治 恵子 3
 〃 久保 信子 3
 53期 伊藤 幸子 1
 〃 白倉 政雄 1

54期 柳田 智子 1
 〃 野口美智子 1
 55期 浅野井 武 3
 〃 山 縣 正 3
 〃 浅井 和子 2
 56期 小林 達雄 3
 〃 千木良富子 1
 〃 関 眞弓 1
 〃 矢吹 敬 2
 57期 大串美知子 1
 〃 江原 和子 1
 〃 小川 武夫 1
 〃 高橋 久美子 1
 〃 山本 研治 1
 58期 小林 早苗 1
 59期 羽金 己喜男 1
 〃 内海 順夫 3
 60期 荒井 幸子 1
 61期 平岩 弘一 1
 〃 徳田 政行 1
 62期 前田 晋介 1
 63期 高橋 龍造 5
 〃 菊池 和彦 1
 64期 五十畑 雅司 1
 〃 小川 均 2
 〃 新井 英子 1
 65期 木下 則子 1
 〃 原田美知子 1

67期 金康 守利 1
 〃 高秀 修 1
 71期 足達 淑子 1
 73期 米山 健一 1
 92期 古小高恵美子 1
 以上 191口 573,000円
 別途下記の寄付を
 いただきました。

旧職員 北島 裕子 1万円
 現職員 油井 功 5千円
 (株)きかんし 1万円
 41期 加納 久子 1万円
 43期 安念 照美 8千円
 46期 中野 菊美 1万円
 54期 岡野 純一 10万円
 51期 恩田 好子 1万円
 58期 有志 一同 1万円
 63期 阿曾 保子 1万円

(平成29年9月～
 平成30年3月31日現在)
 合計 756,000円

計 報

(敬称略)

期 別	氏 名	旧 姓	ご逝去年月日
旧職員	島田 昌彦		平成29年3月13日
旧職員	中野 香代子		平成29年10月27日
旧職員	鴨下 清純		平成29年11月26日
23・3	宋 朋子	小野	平成30年1月23日
24・2	市川 寿々	市川	平成30年2月
28・2	宮田 千枝子	松村	平成28年4月23日
28・4	光永 日出子		平成29年8月26日
32	伊藤 節子	倉持	平成29年5月6日
32	鈴木 英子	西村	平成30年3月26日
33	金井 ナオミ		平成28年12月9日
35	吉野 保子	徳永	平成22年
35	藤岡 敏子		平成29年12月4日
36	高井 喜佐子	市川	平成27年11月25日
36	馬場 陽子	矢倉	平成29年11月24日
38	猪俣 時子		平成28年12月24日

期 別	氏 名	旧 姓	ご逝去年月日
40・G	小林 芳枝	森	平成29年3月20日
40・D	神宮寺 欣子		平成28年9月15日
41・E	岸本 八也		平成25年
44・A	山内 眞治		平成28年4月29日
44・A	荏開津 康子	大木	平成29年10月
45・B	鈴木 武弘		平成28年4月
45・F	安達 文子	四条	平成28年9月13日
55・B	加藤 裕志		平成27年8月2日
55・G	横井 喜子	萩野	平成29年10月31日
57・A	大平 文雄		平成29年12月23日
57・C	桜井 淑恵		平成29年11月25日
58・B	石川 辰夫		平成30年3月24日
61・E	柴田 繁		平成27年3月

皆様のご冥福をお祈りします。 合掌。
 平成30年4月16日現在

